

モノマガジンがお届けする**メンズファッション**の最重要アイテム、カバンこだわりマガジン

monoSTYLE

カバン・モノ

大好評カバン・モノ
コラボカバン!
「ビスコンセプト」
「犬印鞆製作所」
3月25日~4月30日
期間限定受注販売だぞ!



浅草の帆布カバン専門メーカー「犬印鞆製作所」の定番ビスカバン[B4フリーケース]をベースに「カバン・モノ」が大胆カラーチェンジ! オトナ向けのマリニティストは名づけて「液マリン」。1万6800円で受注開始!

ナイロン系ビスバッグ「ビスコンセプト」やターボリン素材のデイリーカバンの「ヴィズウォーカー」で知られるノーマディック社との初コラボ実現。デイリーにも最適なワンショルダー。超価格9975円とどうだ!

【アニバーサリーブランド物語】

サムソナイト

アニバーサリーイヤーを迎えたメーカー／ブランドの歩みを検証する特別企画。
好評の第2回は2010年に創業100周年を迎えた世界最大のラゲッジメーカー「サムソナイト」をピックアップ!

モノスタイル カバン・モノ

WORLD MOOK

平成22年4月30日発行(通巻812号)

ワールド・ムック812

No. 5

メンズファッションは
カバン選びで決める!

カバン ブランド 最前線!

ブランド、スタイル、素材、用途……。カバンチョイスにはいろいろな要素があるけれど、実は「名ブランド」+「アンダー5万円」のゾーンにスグレモノが集中しているのだ! 本特集ではこのゾーンの傑作を大紹介するほか、こだわり男子弁当箱カタログ、ジャケバン+本格レザーカバンスタイル、ベストショップガイドなど盛りだくさんの内容でキミのカバン・ファッションを大サポートする!

【カバンLOVE&LOVE】
平野啓一郎さん登場!

【特別企画】

コーティングバッグにくびったけ!

【社長のカバン】

BLBG社長 田窪寿保さん

「妄想カバン館」写真:魚住誠一

ほか、世界のミリバッグを実装する／運ぶのオマージュ／働くカバン／カバンの考現学、など連載も満載!

Other Item

その他

マルチトートA4 (M520)

価格/3万9900円 W37×H26.5×D11cm

ハードなヌメ革にソフトレザーを合わせたA4サイズのトートバッグ。中は三層構造のスペースとなっており分類収納にも便利だ。



セカンドバッグ (E1540)

価格4万5150円 W28×H19×D10.5cm

ビジネスシーンで使う小物を入れるのに便利なセカンドバッグ。A5サイズのモバイルPCなどデジタルツールを入れるには丁度良いコンパクトさが魅力。



ITAGAKI

イタガキ

since 1982

<http://www.itagaki.co.jp>

問い合わせ ☎0125-32-0525



天然素材を使って 丁寧なレザービジネスを

ビジネスマンにとってオンタイムで持つカバンは一緒に過ごす時間が多いパートナーのようなものだ。そういつた視点で考えればビジネスバッグは単なるビジネスツールとしてでなく、未永く愛着が持てるものが欲しい……そう考える人が多いのが、近年ではビジネスバッグに革製を使うユーザーが増えつつある。昔ながらの天然素材、技法で作られた革製のビジネスバッグは非常に長く使えるのでオススメしたいところ。そんなレザーバッグで最適なのが北海道発のカバンメーカー「イタガキ」のビジネスバッグ。素材には伝統的なビット槽でなめした橋木レザー製のタンニン革を使い、職人たちが手仕事で製品へと仕上げていく。素材も製造も手間暇を惜しまず作っているだけにその仕上がりが秀逸。長時間かけてなめされた革は非常に肉厚で堅牢、さらには使うほどに味わいが増す経年変化が楽しめる。長年使い続けたカバンを眺めながら、人生の軌跡を思い出す。そんなビジネスバッグはいかがだろうか。



Check Item

トートバッグ大 (E758)

価格4万7250円 W35×H30×D13cm

重厚なタンニンレザーを使ったA4トートで男女を選ばず使える。中を隠せるフラップが付いているのでオンシーンでも問題なしだ。



BRAND History

天然素材を使い、手間暇を惜しまず、丁寧なレザーバッグを作る……という同ブランドの哲学は代表にして、伝説のカバン職人でもある板垣英三氏の人生から生まれたものだ。約半世紀前に徒弟制度が残るカバン業界で基礎から叩き上げられた板垣氏は以降、常に靴作りの第一線で活躍。そして1982年に「いたがき」を立ち上げたから経営者としてでなく、常

に職人視点でカバンを作り続けてきた。今も素材から工程に至るまでその全てをチェックするのは板垣氏その人であり、同社の代表的なカジュアルライン「鞍」シリーズにおいては、その全てを昔ながらの手縫いの技法で作っているという。その姿勢と哲学は若い職人たちにも浸透、高い品質を持つレザーバッグを生み出す原動力ともなっている。



靴作りに全てを捧げてきたといっても過言でない板垣氏の半生は「ひとすじの道」という自伝に纏められている(左)。伝統的な技法で「鞍ショルダー」を縫う板垣氏(下)。

